

## 特別講演 2

### 「C型肝炎最新治療の現状と新たな話題について」

福井県済生会病院 内科主任部長

野ツ俣 和夫 先生

肝臓病の中心であるC型肝炎に対する抗ウイルス療法は、最近急速に進歩し、大きく変わってきている。2014年9月より、本邦でもインターフェロンフリーの直接作用型経口抗ウイルス薬（DAA：Direct acting antivirals）の組み合わせでの治療が始まり、現在までHCVゲノタイプ1型は5種類、2型は2種類の治療が可能となっている。当院でも約500例で導入した。残された問題すなわち薬剤耐性例、非代償性肝硬変例、腎機能障害、透析例に対する治療方針も解決の道筋が立ちつつある。さらに新たにクローズアップされたDAA治療後発癌、HBV再活性化、高脂血症の詳細も現在かなり明らかになってきている。C型肝炎患者の掘り起しについては様々な試みがなされているが、肝炎医療コーディネーターの養成や非肝臓科へのアプローチなど現在取り組んでいる現状を紹介する。C型肝炎ウイルスは肝臓だけでなく様々な全身疾患にも関わっており、ウイルス駆除による多くの新たな恩恵も明らかになってきている。C型肝炎治療は、今後ますます脚光を浴びると思われる。